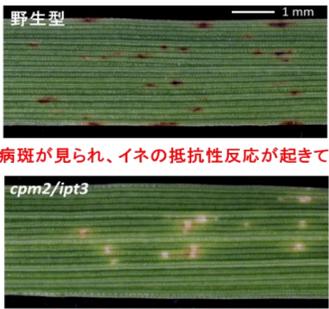


バイオサイエンス学科 学会発表

【発表者について】アンダーラインは本学教員、研究員および技術職員、○は発表者、※は大学院生、卒研究生または卒業生

学会名	第59回日本植物生理学会年会
演題名	イネのいもち病抵抗性反応におけるサイトカイニンとジャスモン酸の関与 Involvement of cytokinin and jasmonate in rice blast resistance
発表者	○ <u>宮本皓司</u> 、※ <u>石塚祐伸</u> 、 <u>南栄一</u> 、 <u>西澤洋子</u> 、 <u>加来久敏</u> 、 <u>湯本絵美</u> 、 <u>柴田恭美</u> 、 <u>酒澤智子</u> 、 <u>横田孝雄</u> 、 <u>朝比奈雅志</u> 、 <u>飯野盛利</u> 、 <u>岡田憲典</u> 、 <u>山根久和</u> 【植物化学研究室】
内容	本発表では、イネの病害抵抗性におけるサイトカイニンとジャスモン酸の機能を報告した。まず、サイトカイニンとジャスモン酸の両方を欠損する変異体をゲノム編集により作出した。その後、変異体を用いたいもち病菌に対する抵抗性を評価したところ、サイトカイニンとジャスモン酸の両方を欠損する変異体において抵抗性が著しく低下したことを示した。本研究は、植物化学研究室内の大学院生の修士論文研究の一環として行われたものである。
関連画像	 <p>褐色の病斑が見られ、イネの抵抗性反応が起きている。</p> <p>白斑が見られ、組織が崩壊している可能性が考えられる。</p> <p>本研究で作製した変異株の病徴</p>